

# 海の生態系を知ることは 人と地球を守ること



長崎大学 水産・環境科学総合研究科

教授 山口 敦子 氏

かれこれ三十年にわたり国内・外の海洋で、多様な魚類の生態や環境適応などを研究してきました。最近では、海の環境と複雑な網目のように絡み合う生物間のつながり、生態系の解明に挑んでいます。定説を覆す新事実や、生命の神秘に感動するような新たな発見もでき、幸い科学への好奇心が薄れたことはありません。魚類とは脊椎動物の半数を占めるグループで、地球上の全水域から三万六千種以上が知られています。私たち人間が属する四肢動物も魚類から進化しました。その証拠に、人の胎児には鰓を持つ魚の時期があり、出生後の体の随所にも魚の痕跡を見ることが出来ます。

幼い頃から魚と読書が好きでした。根石小の低学年の頃、世界的に著名な遺伝学者・木村資生博士が母校を訪れ、朝礼で全校生徒の前に立ち挨拶されたときのこと、今でも鮮明に覚えています。科学者という選択肢が頭に入ったのはその時でした。大学四年の時に志した研究者への道は苦難の連続でしたが、幼少期

に本で知り心奪われたサメや研究者に出会う興奮、転んでは起き上がった経験、各国や地域で出会った人々に支えられてきました。文科省の海外派遣で数十年前来憧れていた米国初の女性魚類研究者・クラーク博士に、ある遊びを教わりました。よーいどん！で海岸に落ちていたサメの歯を探すのです。まるで貝殻を拾うように。サメの歯は短期間で生え変わるため、サメが豊富なフロリダの海岸には砂に混ざりサメの歯が打ち上げられています。姿を見ずともすぐそばにサメたちがいると実感できる、こんな遊びがあったとは！

産業革命以降の長い年月の後、想定外の気候変動がもたらされました。そこで脱炭素を掲げ、革新的技術で持続可能な未来社会を描きます。しかし、四十億年超の地球の歴史の中、絶妙なバランスで築き上げられた生態系の全容は解明されていません。急ピッチで進むイノベーションが生態系に更なる負担を強いるとしたら、結果は長い年月の後に現れるでしょう。経済活動と生態系



保全のバランスをどう取るか？正解のない問いです。

今、何を伝えるべきかと思案します。指先ひとつで情報を手でできる時代であり、考えるよりもネット検索する学生たち。海の生物多様性を知り、人と生態系には切り離せない複雑なつながりがあることを実感してほしい。健全な生態系があつてこそ人の命も守られます。百年先の人々も豊かな心と体を持ち、豊かな海の生態系と共にありますように。

(やまぐち あつこ)

## 教育随想



# 月報 岡崎の教育

令和4年8月1日

# 8月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想……………	1
長崎大学 水産・環境科学総合研究科 教授 山口 敦子 氏	
この人に聞く……………	2
岡崎まち育てセンター・りた 三矢 勝司 氏	
羅針盤……………	2
常磐中学校 校長 石川 敏幸	
ふれあい……………	3
六名小学校 教諭 生駒 大典	
特集……………	4
菅生祭	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
翔南ふれあいフェスタ(平成26年)	
この本を……………	8



対話でまちを育てる

岡崎まち育てセンター・りた

三矢 勝司氏

名古屋工業大学、千葉大学大学院で市民参加型の建築を研究。二〇〇四年、同郷の仲間と共に「岡崎まち育てセンター・りた」を設立した。これまで「乙川リバーフロント支援事業」や「松應寺横丁まちづくり」などの事業に携わる。「りた」には「お互い様（利他）」という意味が込められている。市民が「まち」を活用し、助け合い、自分たちの場所意識を育む新しい自治の実現のため日々活動する。

—三矢さんはどのような活動をされているのですか—

市民や市民団体が「まち」に関わるための橋渡しを行っています。例えば、市民の方と公園の活用の仕方を考えるワークショップを行ったり、イベントを考えている団体の相談を受けて、助言やお手伝いをした

りしています。「まち」は物をつくって終わりではなくて、市民によって活用されることでよい「まち」に育っていくと考えています。だから、私たちは、「まち育て」という考え方を大切にしています。

—最初に手掛けたことは—

東京で働きながら、自主的に「奈良井公園を考える会」を開催しました。そこで出た地域住民の意見をまとめて、市に提案しました。私も小学校時代によく遊んだ思い出の公園です。ちようど貯水池の工事で大きな土の山ができていて「これを使えば、楽しい公園になる」とひらめきました。公園の山や水遊び場、滑り台の形には、保護者の方や当時の小学生の意見が反映されています。

—市民と行政をつなぐときに大切にしていることは—

意見の対立を対話に変えることです。このことを強く感じたのは、りぶらの施設設計のときです。りぶらほどの施設に市民の意見が反映されることは、まずありません。しかし市民の意見を大切にしたら施設づくりに挑戦したのです。ところが、現実には過酷でした。意見交流の場には、百四十人程の人が参加しました。そこには反対の意見をもつ方も大勢いて、重たい空気でした。その中で、お互いの本音を、一つずつ聞いていく。そうすると、「みんなが集まる場所にしたい」という共通の思いが見えてきました。本音で対話する中から、私たちが接点を見つけて、言葉や図にしていく。その共通の思いが形になったのが今のりぶらです。

みんな、「自分のまちをよくしたい」という思いは同じですから。

—三矢さんが挑戦したいことは—

新しい自治の仕組みづくりです。高齢化や過疎化によって、その地域の人だけで行う自治には限界がきています。だから、その地域に関わりたい人は誰でも関わることができるよう自治の仕組みが必要です。昨年、籠田公園周辺の地域で、七町（ななちよ）広域連合次世代の会が発足しました。三十代、四十代の方が中心の会に、企業や行政など、地域の枠を超えて、様々な人が集まって、「まち」の活性化プロジェクトを進めています。ようやく目指してきた自治の枠組みができてきたと感じています。

—岡崎の若者に伝えたいことは—

若い子たちには「まち」に関わってほしいと思います。「りぶらが好きで受験勉強もこころでした」という若者が、りぶら担当の市の職員となっています。ここで青春を過ごした人たちが、今、情熱をもって「まち」に関わってくれるのはうれしいことです。奈良井公園でたくさん親子が遊んでいるのを見ても、やってよかったと感じます。だから、「まち」をどんどん活用して、思い出をつくる。その思い出が、「自分たちで自分たちのまちを育てよう」という気持ちにつながると思います。



氏名 みつや かつし  
生年月日 昭和五十年  
二月二十三日  
住所 岡崎市六名本町



子供への声かけ

常磐中学校

校長 石川 敏幸

子供に対する基本となる指導の一つに、「教師は子供の立場に立って自分の言動を考える」がある。指導がうまくいかず困ったときなど、私はよくこの言葉を思い出し、自分の言動を振り返ってきた。

授業を参観していると、「分かった人」「できた人」などと声をかけ、挙手を促す場面をよく目にする。子供たちの理解度や進度を確認するための何気ない言葉だ。しかし、この問いかけは、分らない子供やできない子供にとっては厳しく、辛い言葉であろう。

自身の経験を振り返ってみる。私は、中学三年生の初めまで、英語の授業では「お客さん」の状態だった。先生の話や説明が理解できず、ただ座っている時間が長かった。少なからずこういう子供がいるのが教室である。「分かった子」は素直に手





考えを言葉にできるように

六名小学校

教諭 生駒 大典

Aは、活発で元気いっぱい的一年生である。笑顔で「おはようございます」と言って登校する。休み時間には赤白帽子をかぶって外で遊び、汗だくになって教室に戻ってくる。大きな声で音読をして、マットを使った運動遊びではお手本となった。

ところが、Aは言葉で何かを伝えることが苦手なようだった。私が「ところでAはどう思うの」と質問してもたいていAは下を向き、何も言えない。思えば、友達がAに何か質問したときにも「うーん」と悩んで結局「わかんない」と言うことが多い。Aに自分が思ったことや考えたことを言葉で伝えることができるようになってほしいと思った。

私はAが物語を楽しみ、言葉で伝えたいくなるような国語の授業を通して、自分の考えを伝えることのよさを味わわせたいと考えた。

国語の授業で「大きなかぶ」の大きさを実感させようと、運動会で使用する大玉を提示した。一番背が高

いAを指名して、大玉の横に立たせた。大玉を目の前にしたAは、興奮した様子で飛び跳ねた。その後、Aはおじいさんの気持ちを「こんな大きなかぶは、はじめてみた」と書くことができた。私はすかさず、「いいこと書いているね」と声をかけたが、Aは手を挙げて発表しなかった。授業後、Aに「手を挙げればよかったのに」と声をかけたが、私と目を合わせることもなく、下を向いて黙っていた。Aの苦手意識の強さを感じた。

次の時間から動作化を取り入れた。体を動かすことが好きなAは、楽しみながら物語の場面を再現するのではないかと思った。「おじいさんのお面をかぶって気持ちを書いてみよう」と発問すると、Aは手を挙げた。Aはおじいさんのお面を被り、かぶの周りを歩きながらつぶやいた。「早く食べたいなあ」。小さいながらも実感のこもった言い方に、私はすぐにAを褒めた。Aは少しはにかみ、嬉しそうな足取りで席へ戻った。

その後の友達との意見交流でもおじいさんになり切って「私は○○だ」と思う」と伝える姿があった。「Aさんはそう思うんだね」と私も相槌を打った。Aは私を見てほほ笑んだ。

次の授業からは、かぶを抜く場面だった。他の児童の動作を見たAが「『まだまだまだ』」のときは、手をもっと後ろに下げた方が、力が入るよ」と友達に助言した。必死でかぶを抜こうとするおじいさんの気持ちを捉え、場面の様子を想像して

いた。Aは私の方を見た。私は「いいアドバイス」と大きくうなずいた。物語はいよいよクライマックス。大きなかぶを引き抜くおじいさんを演じたAは、大玉に結ばれた綱を手に取り「みんなで力を合わせて抜こう」と言った。おじいさんになりきり、皆に声をかけるAの姿があった。「うんとこしょ、どっこいしょ」

元気のよい声が響き渡り、綱を握る手に力がこもる。「もう少しだ」というAの声がした。

「うんとこしょ、どっこいしょ」代表児童六人の声と動作が合わさる。その瞬間、大きなかぶが抜け、勢いのまま六人は後ろに倒れ込んだ。自然と拍手が沸き起った。Aは「やっ」と抜けてよかった。みんなで力を合わせたからだね」と自信をもって思いを伝え、目をきらきらさせた。



を挙げられるが、「分からない子は素直に「分かりません」とは言えず、分からない状態のままである。「頑張れ」「努力しなさい」という言葉もよく使われる。しかし、分からない子の立場からすると、何をどうすればいいのか、どう頑張ればいいのか分からないのだ。教師は「分からない」と言えず苦しんでいる子供に、どう声をかければいいのかを考えねばならない、と自身の経験から思うようになった。

また、困った状態の子供や苦しんでいる子供に「大丈夫か」と声をかけることもある。そのように聞かれれば、子供は「大丈夫です」と答えてしまう。教師がその子のことを心から心配して声をかけても、その言葉の中心によっては、子供の本心を引き出すことができないことがあるのではないか。

自分の気持ちを素直に表に出せない子供、「分かりません」「できません」と素直に言えずに困っている子供は多い。現在の教育現場では「子供の立場に立つ」「その時々の子供の内面を推察する」等、個々の子供の多様な状況に対応する教師の姿勢が求められている。言葉を口にする前に、どのような声をかけるべきかを考えたい。そして、そのような子供に優しく寄り添える教師でありたいと思う。



ふなたまさい

## ▲菅生祭のなかで船魂祭を行う鉾船

# 菅生祭

## 鉾船神事奉納祭と 練り込み行列

〜岡崎の夜に花火が打ち上がるまで〜

岡崎の花火大会は江戸時代から続く伝統の神事が発祥だということをご存じだろうか。岡崎最古の神社である菅生神社（西暦一〇一〇年創建）では、江戸時代後期より、菅生祭鉾船神事奉納祭が行われ、人々に親しまれてきた。菅生川に三六五個の提灯を付けた鉾船を浮かべ、花火を奉納する鉾船神事は現代まで受け継がれている。近年は「岡崎城下家康公夏まつり花火大会」と共催し、八月の第一土曜日に行われている。徳川家康公の生誕地として栄えた岡崎は江戸時代より火薬を取り扱うことを許されてきた。やがて泰平な世が続くにつれて、火薬の技術が平和的に利用されるようになり、花火が普及した。そのように花火との結び付きが強い岡崎であるが、岡崎の花火大会が菅生祭の三河花火奉納との共同開催であることを知っている人は意外と少ない。菅生祭では、各町が花火の技術を競い合い、仕上げた花火を担ぎ、菅生神社に向けて練り歩く。さらに、神前や船上で手筒花火の奉納が行われた後、現在岡崎市と共同開催となった三河花火奉納が行われるのである。平和な世の中を築いている神々や殿様への感謝の心が込められ奉納された花火は、今も変わらず岡崎の夜空を明るく照らしている。

各町で花火や鉾船を作ることはなくなりましたが、伝統ある神事は受け継がれている。歴史ある菅生祭が、今後も続いていくことを願っている。



# 菅生祭のタイムスケジュール



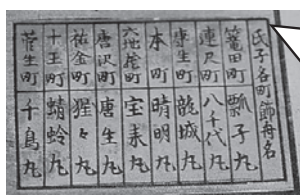
▲奉納花火の安全祈願する本殿神事  
(14:00~) ~



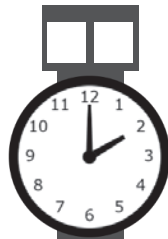
▲各町から長持ち(昔は中に奉納花火)を担いで歩く練り込み行列 (15:00頃~)



▲神々や殿様への感謝、船頭の安全祈願、厄除けなどの意味をもち、4つの町が2艘に分かれ花火を奉納する船上手筒花火 (17:00頃~)



江戸から大正時代にかけては各町が船を出した。現在は岡崎市が管理する銚船に代表の町が乗る。  
※岡崎菅生神社祭典之図より



▲銚船でご祈祷・お祓いをする船魂祭  
(14:15頃~)



▲各町の代表者が奉納する神前手筒花火  
(15:15頃~)



## ○ ここから岡崎市と共同開催



▲「岡崎城下家康公夏まつり花火大会」共催の打ち上げ花火を背景に美しく浮かび上がる銚船。岡崎の夜空を明るく照らす三河花火奉納 (19:00~)





●最新情報

○大樹寺の木造東照大権現坐像が県の指定文化財に

現在、岡崎市指定文化財である大樹寺の木造東照大権現(徳川家康)坐像が愛知県指定文化財に指定された。

木造東照大権現(徳川家康)坐像が造立されたのは、正保四(一六四七)年と推定される。穏やかな表情のうちにも生気がこもり、当代一流の七条仏師が手掛けた秀作といわれる坐像である。



●ハートピアだより

ハートピアに通所している子供たちは、ハートピアの日課に沿って生活をしていきます。日課は次のとおりです。

通所(十時) ↓清掃 ↓ぼれぼれタイム ↓昼食 ↓ぼれぼれタイム ↓退所(十五時)

基本的には、午前中は個別活動、午後は集団活動を行っています。今年度から、午前の活動を「ぼれぼれタイム」、午後の活動を「ぼあぼあタイム」に名称を変更しました。

【ぼれぼれタイム】

「ぼれぼれ」とは、スワヒリ語で「ゆっくりいこう」という意味です。この時間は、個のペースでゆったりと活動しています。自分で計画を立てて、教科学習や創作活動、オンライン授業参加、タブレット利用学習、調べ学習、コミュニケーション活動、読書等に取り組んでいます。わからないことや相談したいことがある場合は、各部屋の担当指導員が支援をします。

真剣に活動に取り組む姿が多く見られます。特に中学三年生は、中学卒業後の進路に

向けて日々努力を重ね、着実に学力を伸ばしています。



＜ぼあぼあタイム(ドッジビー)＞

【ぼあぼあタイム】

「ぼあぼあ」とは、スワヒリ語で「やあやあ(挨拶)」という意味です。みんなでやあやあと挨拶や言葉を交わしながら交流を深める時間です。毎日一時間程度、屋外レクリエーションに取り組みます。子供たちに人気のある活動は、ドッジビーやフリスビーゴルフです。屋外レクリエーション後は、屋内でカードゲームやボードゲーム等をして楽しく過ごしています。

午前中は個の能力を高め、午後は社会性を育むことに力を入れています。このような活動を通して、子供たちが自己肯定感を持つことができますように支援をしています。

●授業力・教師力アップセミナー

今年度も、夏季休業中に授業力・教師力アップセミナーを開催する。

「基礎編」では、次ページの表にあるとおり、七月二十二日(金)、二十七日(水)、八月五日(金)の三日間にわたり、十八の講座を設けている。

「応用編」は、七月二十九日(金)、八月二日(火)、八月三日(水)の三日間にわたり、二十七の講座を設定している。

この授業力・教師力アップセミナーを通して、新たな知識や技能を身に付け、教師としての力量アップに役立ててほしい。

●七月号の訂正

七月号「今も残る岡崎城の石垣と城門」に「日本最長の菅生川端石垣」とありますが、岡崎城以外の城に菅生川端石垣よりも長大な石垣が存在するため、菅生川端石垣は日本最長ではありませんのでよろしくお願ひします。



教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間



◆令和4年度授業力・教師力アップセミナー【応用編】

【7月29日(金) ※小学校体育科教育【7/27(水)実施】

講習名	会場	講師
小学校国語科教育	総合学習センター 多目的ホール1	鈴木紀子子
中学校社会科教育	総合学習センター 多目的ホール2	竹平 真仁
小学校算数科教育	総合学習センター 多目的ホール3	平 任代
中学校理科教育	総合学習センター 研修室1	清水 孝治
小学校音楽科教育	美川中学校 第1、第2音楽室	手島 露子
小学校 図画工作科教育	総合学習センター 研修室2	長坂 博子
小学校体育科教育	中総武道館 第1、第2会議室	板倉 真介
中学校技術科教育	甲山中学校 パソコン室、金工室	浅野 博志
中学校英語科教育	総合学習センター 研修室5	山本 和代
健康教育	総合学習センター 小ホール	岡村 直美

【8月2日(火)】

講習名	会場	講師
中学校国語科教育	総合学習センター ICT室	山本 伸
小学校社会科教育	総合学習センター 多目的ホール1	加藤 環
中学校数学科教育	総合学習センター 多目的ホール2	鈴木 勝久
小学校理科教育	総合学習センター 研修室2	犬塚 健一
中学校音楽科教育	六ツ美中学校 第2音楽室	長坂麻奈美
中学校美術科教育	総合学習センター 研修室1	安藤 眞樹
中学校 保健体育科教育	中総武道館 第1、第2会議室	兵藤 輝徳
小・中学校 家庭科教育	緑丘小学校 家庭科室	原田 真弓
小学校外国語 (外国語活動)	総合学習センター 研修室5	都筑 香理
命の教育	総合学習センター 多目的ホール3	榊原万由美
幼児教育	総合学習センター 小ホール	伊豫田千重子

【8月3日(水)】

講習名	会場	講師
特別の教科 道徳	総合学習センター 多目的ホール3	本郷 一毅
特別活動・学級経営	総合学習センター 研修室1	鈴木 正統
生活科・総合的な 学習の時間	総合学習センター 研修室2	林 尚子
情報教育	東海中学校 パソコン室	村田 貴志
発達障がい児の 理解と支援	総合学習センター 多目的ホール1・2	鈴木 孝広
生徒指導	総合学習センター 小ホール	伊澤 勉

◆令和4年度授業力・教師力アップセミナー【基礎編】

月日	教科・領域	講師	開講式 閉講式
7/27 (水)	国語・書写	元愛知学泉大学 教授 山田 禮子 岡崎市立六ツ美北部小 教頭 武田 玲香	9:00 12:10
7/27 (水)	社会	中央クリーンセンター 業務係 宇佐美尚子 環境部清掃施設課 山下 大輔 岡崎市立翔南中学校 社会科指導員 森田 淳一 岡崎市立矢作北小学校 社会科指導員 安井 文一	9:00 12:00
7/27 (水)	算数・数学	愛知教育大学 数学教育講座 准教授 青山 和裕 岡崎市立広幡小学校 算数・数学科指導員 加藤 良彦 岡崎市立城南小学校 算数・数学科指導員 秀野 亜友	9:15 11:50
7/27 (水)	理科	自然科学研究機構 生理学研究所 教授 竹村 浩昌	9:00 12:00
7/27 (水)	生活	愛知教育大学 生活科教育講座 教授 加納 誠司	9:30 11:50
7/27 (水)	総合的な学習の 時間	中京大学 教授 久野 弘幸	9:10 12:00
8/5 (金)	音楽	生田流宮城社大師範 岡崎文化協会理事 高瀬 紀子	9:20 11:40
7/27 (水)	図工・美術	ラクガキ教室 BANKSY 代表 藤本 径也 岡崎市立北中学校 図工・美術科指導員 堀口 宏章 岡崎市立六ツ美北中学校 図工・美術科指導員 中根 勅子	9:15 11:30
7/27 (水)	体育・保健体育	岡崎市立小豆坂小学校 保健体育科指導員 杉浦 大作	9:00 12:00
7/27 (水)	技術・家庭科 (技術分野)	岡崎市立甲山中学校 技術・家庭科指導員 河澄 崇	9:15 11:50
7/27 (水)	家庭科	愛知教育大学 家政教育講座 教授 原田 悦子	9:15 11:50
7/22 (金)	外国語(外国語 活動)・英語	岡崎市立福岡小学校 英語科指導員 梅岡 知充	9:00 15:00
7/22 (金)	道徳	岐阜聖徳学園大学 教育学部 准教授 山田 貞二 岡崎市立城南小学校 教諭 大橋喜代美	14:00 16:20
7/22 (金)	特別支援教育	愛知教育大学 特別支援教育講座 講師 岩本 佳世 岡崎市立南中学校 特別支援教育指導員 小山 岳彦	9:15 11:50
7/27 (水)	学習情報	岡崎市立東海中学校 学習情報指導員 河合 泰宏 岡崎市立藤川小学校 学習情報指導員 太田 尚志	9:00 11:50
7/27 (水)	学校図書館	岡崎市立山中小学校 教頭 山本 伸 岡崎市立大樹寺小学校 教諭 赤崎 類子	9:30 11:30
7/27 (水)	学校保健	愛知県立高浜高等学校 教頭 牛山 美奈 岡崎市立井田小学校 保健指導員 高原 美紀	13:30 15:50
7/27 (水)	生徒指導	こども発達センター センター長 早川 文雄	9:30 11:20

・カ  
ツ  
ト  
  
岩  
津  
小  
  
三  
浦  
祐  
揮

# 翔南ふれあいフェスタ (平成26年)

写真提供：翔南中学校

真新しい校舎の前で、小学生や中学生、地域の老若男女が、風船釣りに興じている。集まった人たちから笑顔がこぼれている。

開校二年目の平成二十六年から、生徒会が中心となって、「翔南ふれあいフェスタ」を実施している。新しい中学校を地域に知ってもらうことを目的に、フェスタ当日資源回収に協力した方にPTAがかき氷をふるまった。また、各部活動が的当てや空き缶積みなどの遊戯コーナーを開き、地域のひとふれあうこと、学校行事などで地域の方とふれあうことで、地域との絆を深めることができる。市内の各学校が築いた信頼関係は、それぞれが工夫し、長い年月をかけて育んできたのである。



通りや玄関先への打ち水で涼しくなった。風鈴の音色を聞くだけでさわやかになった。暑いながらも夏を楽しんだ子供の頃の思い出である。

今年の夏もとても暑い。冷房の効いた建物から一歩外に出ると、セミの声が夏らしい。暑気を楽しんでみようと思う。

## とホ

## 葉目ツ



▲「わあ、冷たい」  
1年生初めてのプール(根石小)

本音で対話をすることで、思いが形になる。通りすがりに、奈良井公園の賑わいには、この賑わいは感無量だろう。

このまちの将来を担う子供たちに、「自分たちのまちをよくしよう」という心を育みたい。

堤から見物できる岡崎の花火の音が体中に響く。菅生祭鉾船奉納神事は、江戸時代から続く伝統行事である。

話を伺った社務所には、代々の氏子の名前がずらりと並んでいた。菅生祭を守り、受け継いできた人々の思いを受け、今なお受け継がれゆく。



個別最適な学びと協働的な学び  
奈須 正祐  
東洋館出版社  
¥2,000

※個別最適な学びと協働的な学び 奈須 正祐  
東洋館出版社 ¥2,000

心に残った一文  
子供や授業をどのようにとらえ、教師は何をするのか、このことを深く考える必要があるのです。

一斉授業は自然発生的に生まれたものではなく、近代という時代に『発明』されたものである。その後、近代学校への批判から、子供観の問い直しが行われた。第一は、すべての子供は生まれながらにして有能な学び手であること。第二は、子供は一人一人違っていいこと。

この子供観に立つならば、学校は、すべての子供をあるがままに受け入れる場であり、子供たちが求める多様な学びを提供し、必要に応じて適切な支援を行うことが教師の仕事となる。令和の日本型学校教育の姿を示す一書である。

※落語流 教えない授業のつくりかた  
立川 談慶・玉置 崇  
誠文堂新光社 ¥1,800

※青年の思索のために  
下村 湖人  
ごま書房新社 ¥1,500

※はやぶさ2のプロジェクトマネージャーはなぜ「無駄」を大切にしたか？  
津田 雄一  
朝日新聞出版 ¥1,800

河合中学校 近藤 浩之